



MITANI

標本の作り方

手軽に作れるカブト虫・クワガタ虫の乾燥標本



株式会社ミタニ
☎029(898)3264

注意

保護者の方へ、必ずお読みください。

- 本品は昆虫用の標本作成キットです。他の目的には使用しないでください。
- 作成の前に本書をよく読み、理解した上で作業に取りかかってください。
- 作成の工程では、針やカッターナイフ等を使用します。お子様が作業する場合は、必ず保護者が立ち会い、ケガのないよう監視のもとで行ってください。
- 作業後は必ず手を洗ってください。

◆標本データラベル（切り取ってご使用ください。）

和名	
学名	
標本作成日	年 月 日

和名	
学名	
標本作成日	年 月 日

和名	
学名	
標本作成日	年 月 日

和名	
学名	
標本作成日	年 月 日

和名	
学名	
標本作成日	年 月 日

和名	
学名	
標本作成日	年 月 日

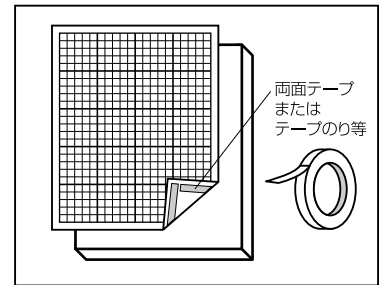
用意するもの

- 死んでしまった昆虫（腐敗しているものは使用できません）
- 方眼紙
- 両面テープ（またはテープのり等）
- 発泡スチロール板（厚さ2.5～3cmくらい）
- カッターナイフ
- タッパ等の密閉できる容器（展肢台が入る大きさのもの）
- 虫ピン（または待ち針等）
- ピンセット
- 乾燥剤
- 防虫剤
- 標本箱

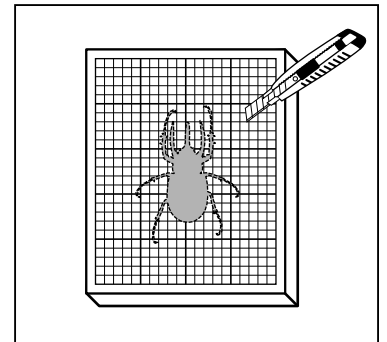
1 展肢台の作成

展肢（展足ともいいます）とは、昆虫を標本にするときに脚や体の形を整え、固定することです。まず、はじめに展肢をするための台を作っておきます。

- 1 発泡スチロール板に両面テープまたはテープのり等で方眼紙を貼り付けます。



- 2 方眼紙を貼り付けた発泡スチロール板を標本にする昆虫の大きさに合わせてカットします。大きさの目安は、長さが体長の2.5～3倍、幅が3～3.5倍くらいにします。（大きい方が展肢しやすくなります。）



●標本作成の流れ

工程

主な作業内容

展肢台の作成

標本にする昆虫を固定するための台を作ります。

軟化

硬直した昆虫をお湯に浸けて軟らかくします。

展肢

形を整え、虫ピンで展肢台に固定します。

乾燥

展肢した昆虫を完全に乾燥させます。

飾り付け

昆虫を展肢台から外し、標本箱にセットします。

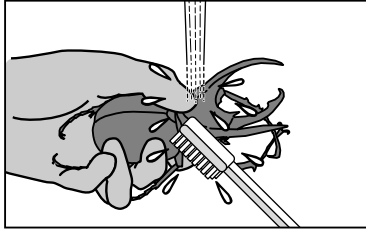
ワンポイント

発泡スチロール板がない場合には、コルクボードや厚めの段ボール等で代用できます。

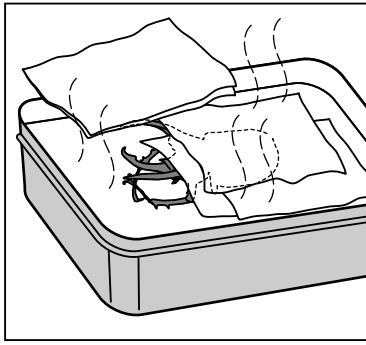
2 軟化

昆虫は、死んでから時間がたつと、硬直して脚などを動かそうとすると折れてしまいます。そこで、硬直した昆虫を柔らかくなるまでお湯に浸け、形を整えやすくします。

1 使い古した歯ブラシや筆等で昆虫の体についた汚れやダニを洗い落とします。あまり強くこすると脚等が折れてしまうことがありますので、やさしく、ていねいに落としてください。



2 タッパ等の容器に40～45℃くらいのお湯を張り、その中に昆虫を浸けます。そのままでは浮き上がってしまうので、ティッシュペーパーで押さえて、全身が浸かるようにしてください。



3 このまま、半日から一日程度浸けておきます。脚等が動くようになったら完了です。

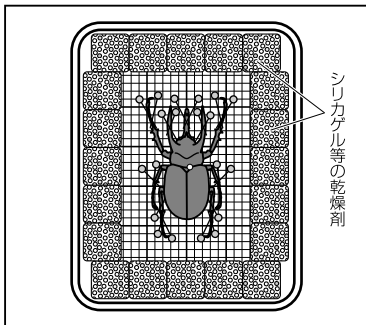
ワンポイント

あまり長い時間浸けすぎると昆虫の内部がふやけて、崩れてしまうことがあります。最低半日に一回は軟化具合を見てください。死んでから1～2日で、まだ関節が軟らかい昆虫は、汚れを洗い落とすだけで、お湯に浸ける必要はありません。

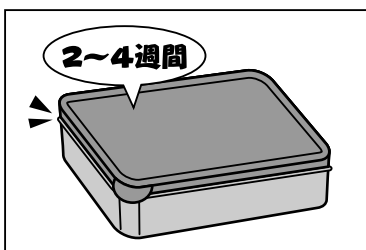
4 乾燥

展肢した昆虫を乾燥させます。そのまま乾燥させると、乾燥する前に腐敗してカビが生えてしまうことがありますので、密閉容器に入れ、シリカゲル等の乾燥剤を使用して完全に乾燥させてください。

1 展肢した昆虫を展肢台ごとタッパ等の密閉できる容器に入れます。展肢台のまわりに乾燥剤(シリカゲル、またはお菓子の袋に同封されている物を応用)をたくさん敷き詰めます。触角やツメ等の細かい部分を壊さないように注意してください。



2 フタをしっかり閉めて、乾燥するまで待ちます。完全に乾燥するまでには、2～4週間ほどかかります。途中、乾燥剤が湿気を持ち過ぎてしまったら交換します。



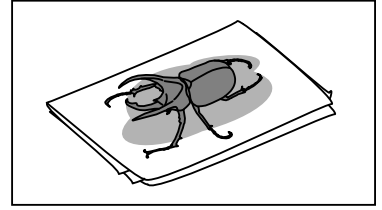
ワンポイント

乾燥が不十分だと、後で腐敗してしまいます。必ず完全に乾燥させてください。ときどきフタを開けて、乾燥具合を確認しましょう。その際、乾燥剤が湿気を持ち過ぎていたら交換してください。(シリカゲルは湿気を持つと変色するので、交換の目安になります。)

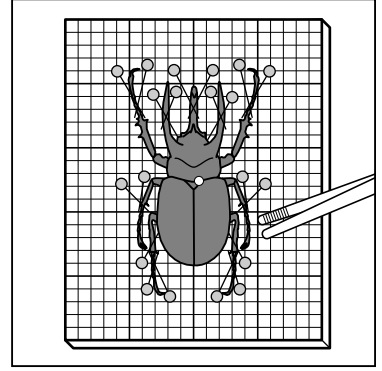
3 展肢

軟化が終わったら、昆虫の形を整え、虫ピンや待ち針で固定します。この工程で標本の形(ポーズ)を決めることになります。格好のいい形になるよう、慎重に行ってください。

1 軟化が終わったら、ティッシュペーパーで水分を十分にふきとります。この時、ツメや触角をこわさないように注意してください。



2 余分な水分がとれたら、作っておいた展肢台の中央に方眼紙の目に沿って置きます。次に、体と胸の間に虫ピンを刺し、動かないように固定します。



3 脚・ツメ・触角・頭の位置などを整えながら、虫ピンや待ち針で固定します。脚は直接針を刺さずに、2本の針で挟むようにして固定します。

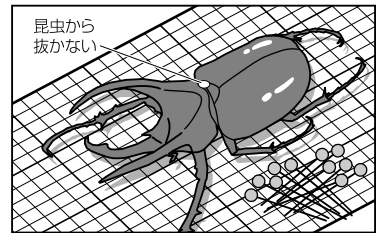
ワンポイント

方眼紙の線をガイドにすると左右対称に整えやすくなります。脚やツメ等の細かい部分は、ピンセットを使って整えましょう。展肢になれて、上手に固定できるようになると、樹木にしがみ付いた形や、羽を広げた状態の標本を作成することもできます。

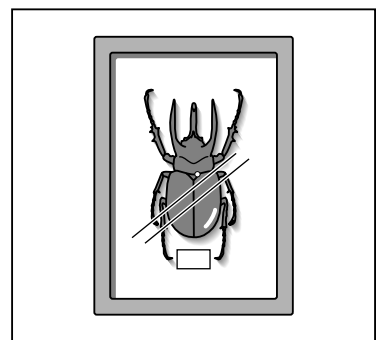
5 飾り付け

乾燥が終わったら、いよいよ標本箱に移す「飾り付け」です。完成までもうすぐ。昆虫を壊さないよう十分に注意して作業してください。データラベルも付けて本格的な標本に仕上げましょう。

1 完全に乾燥したら、容器から取り出し、形を壊さないよう注意して脚などを固定した待ち針等を取り外します。体と胸の間に刺した針は、昆虫に刺したままにして、展肢台から外します。



2 昆虫を標本箱の台紙に固定します。(体と胸の間に刺した針で固定します。)標本の近くに、名前や大きさなどのデータを記入したラベルを付ける为本格的になります。虫がつかないように、防虫剤(洋服ダンスに入れる物)と乾燥剤を入れ、フタをしっかり閉めて完成です。



ワンポイント

展肢台から外す際に、もし、ツメや脚等が取れてしまった場合には、瞬間接着剤や木工用接着剤で直します。カトアップシムシや湿気による腐敗を防ぐため、防虫剤と乾燥剤は定期的に交換してください。